

Honda は、市街地での利便性に優れた 125cc クラスの原付二種市場に対し、独自技術を駆使した個性的なスクーターを投入してまいりました。

水平対向 2 気筒エンジンに、油圧式無段階変速機を組み合わせた「ジュノオ M80」(1962 年)を皮切りに、パワフルで軽量な空冷 2 サイクルエンジンを搭載した「リード 125」(1982 年)、二輪車初のリトラクタブルヘッドライト(自動収納式ヘッドライト)と、スクーターとしては初の水冷 4 サイクルエンジンを採用した「スペイシー 125 ストライカー」(1983 年)、ヘルメットをシート下に収納できるメットインスペースを備えた「スペイシー 125」(1987 年)など、新価値を備えたモデルを提供してまいりました。

原付二種クラスは、割安感のある税金、保険制度など比較的安価な維持費による高い経済性が特長です。なかでもスクーターは、軽快な走行性能や扱いやすいサイズ、オートマチックトランスミッションによる簡単な操作などの高い利便性から、通勤・通学や買い物などの実用的なニーズを中心に、広く支持されております。

今回 Honda は、今までの 125cc スクーター市場にはない、付加価値の高いワンランク上の次世代 125cc スクーター PCX を発売いたします。

PCX のネーミングは「Personal Comfort Scooter」に由来し、「クラスを超えた先進デザイン」、「ゆとりの動力性能と高い環境性能」、「快適で便利な使い勝手」の 3 つのキーワードを設定して開発しました。細部にまで及ぶ造り込みによる流麗な先進スタイリングは、クラスを超えた存在感と上質感を演出します。新設計の水冷・4 ストローク・単気筒 125cc エンジンには、一時停止の際に自動的にエンジンを停止するアイドルストップ・システムを、125cc クラスとして国内で初採用\*し、力強いパワーと低燃費の両立を実現しています。車体は、従来の 125cc クラスのイメージを超えた、ゆったりしたライディングポジションとしながらも、前・後 14 インチの大径ホイールの採用により、ワンランク上の快適な乗り心地と優れた走行安定性を実現しております。シート下の 25ℓ\*の収納スペースや、足付き性を考慮した 760mm のシート高など、スクーターに求められる使い勝手のよさも備えております。

Honda は、環境性能と快適性を高次元でバランスさせた PCX を、お求めやすい価格で発売するため、タイホンダマニュファクチャリングカンパニー・リミテッド(以下、タイホンダ)で生産します。1967 年に二輪車の生産を開始し、以後 40 年以上にわたり培ってきたタイホンダの優れたコスト競争力の高さに加え、品質、供給体制を活用し、タイや日本をはじめ世界各国に PCX を供給してまいります。

\*Honda 調べ